

Face to Face



TICOは保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター

No.17 2009年5月号

ザンビア 特集号

ザンビア 医学生フィールド 活動レポート

日本人医学生がザンビア農村部を訪れて感じた保健医療の現状をお伝えします。

👉p.2

ザンビア モンボシ診療所開所

農村保健プロジェクトの中核となる診療所がついに開所を迎えました。

👉p.5

ザンビア アンドレア邸

活動資金の調達方法として新たに外国人向け宿泊施設の運営が始まっています。

👉p.7

徳島 事務局だより

国内事務局に新たに2名の新人が着任しました。次回の地球人カレッジのご案内します。

👉p.8

ザンビア訪問の2週間 報告を兼ねて

TICO 代表 吉田 修

低栄養児と携帯電話

約10年ぶりにルサカの大学病院の栄養障害児病棟を訪ねた。以前と変わらない風景がそこにある。目が落ちくぼみ、肋骨が浮き上がるほどやせ細った、息絶え絶えの栄養障害児たち。一昔前より治療法は改善されているとはいえ、感染症を合併した重症栄養障害では死亡率が20～40%である。この日も今にも消え入りそうな小さな命がここにはいくつもあった。

ここで大変驚いた光景を見た。栄養状態の悪い子どもの傍らで若い母親が携帯電話で話をしている。なぜ、この母は、携帯電話を買う前に子どもに十分に食べさせることができなかったのか。この疑問は、日本にも共通する問題を提示するような気がする。

ジャトロファ（ヤトロファ）の可能性

油成分を35%含む種子が取れる植物で、代替エネルギー・バイオディーゼルの原料として注目されている。乾燥した荒地でも育ち食

用にはならないので、食糧生産と競合しないで栽培できる可能性がある。



ザンビアでは、既に各地で栽培されている。その広がりには日本人の想像をはるかに超え、200万ヘクタールを計画している。日本は、代替エネルギー・温暖化対策で政策的に世界から大きな後れを取っている。世界は大きく動いており、ザンビアも10年後はバイオ産油国に生まれ変わろうとしている。しかも、CO₂排出権取引が本格化すると二重に得をする。

大企業ばかりが儲かるのではなく、農民が潤う仕組みを構築しなければならない。日本はどう変わるのか、それとも取り残されるのか？

藻類が地球を救う！？

もう1つのバイオエネルギー

藻類研究家、四国大学の西尾教授と同行した。（西尾教授のザンビア旅行記はp.6）。藻類の中には、油成分を50%含むものもあるという。水と光と栄養条件が整えば1日で2倍に増殖する。半分を採取しても次の日には元に戻る脅威の増大率である。これにはジャトロファもアブラヤシもとても及ばない。まだ精製の過程に課題があるが、研究者の総力を挙げて取り組みれば解決は近いはず。

アメリカでは莫大な資金が投入され本気で開発に乗り出している。日本には残念ながら国家戦略がない。ザンビアは、日照よく、大河もあり、土地も広く、藻類の栽培にも適している。

👉p.6へ続く



よしだ・おさむ：自称兼業農家（外科医）徳島県出身。アフリカをはじめ世界各国にて国際医療援助活動を実施。現在徳島県山川町のさくら診療所で地域医療を実践しながら、代表としてTICOを運営。写真はザンビア/ルサカ救命救急隊のみなさんと。



医学生 in ザンビア

17日間の滞在を通じて7人のメンバーが感じたこと

IFMSA-Japan (国際医学生連盟 日本) のプロジェクト (Africa Village Project) は今年で3年目を迎えました。2009年3月20日～4月5日の17日間、7名の参加者がザンビアを訪れました。

今年度もTICOの全面的な協力により、現在TICOが支援しているフィールド、モンボン地区にて4つの活動を行ってきました。今回は、私たちの行ってきた活動とメンバーの感想を皆さんにお伝えしたいと思います。

子どもの調査

2007年は母親に対するインタビュー調査、2008年は男性の健康意識調査を行ってきたことをふまえ、今年度はまだ実態が明らかになっていない「子ども」に焦点を当てて調査を行いました。子どもたちがどのような生活を送っているのか、現状を調査することで問題点を探り、またどのように改善していけるかということを考えて今後の活動につなげることを目標に、アンケート・インタビュー・生活マップという3つの方法を用いて調査しました。このうち、アンケートとインタビューは4年生と9年生の2学年を対象に、生活マップは3年生を対象に実施しました。

アンケート

保健に焦点を当て、手洗い、歯磨き、下痢、マラリア、HIV/AIDSについて調査しました。その中で歯磨きについて、「いつ歯磨きをしているか？」という質問に対して、「朝のみ」と回答している子が非常に多いなど、興味深い結果が得られました。

インタビュー



生活に関することを調査しました。具体的に、日常生活における悩みや、健康における悩みを聞きました。その他にも下痢になった時にどう対処しているか、また家庭における蚊帳の使用状況なども調査しました。健康における悩み・心配事として、マラリア、HIV/AIDS、下痢などをあげる子

が多く、それらに対する関心が高いことがわかりました。また、下痢に対する対処法として、伝統薬（薬草や木の根っこなど）をあげる子が見受けられました。そういった伝統的な治療があるという事実を今まで認識していなかったので驚きました。

生活マップ

「1日の生活」をテーマに生活マップを行いました。具体的には、横軸に「1日の時間軸」を、縦軸に「好き嫌い」を作り、生活の項目（起床、ご飯、学校、入浴など）のカードを生徒たちに並べてもらうというものです。（写真下）

この調査により、起床時間や就寝時間をはじめ、起きてから朝食を食べる前に歯を磨いている子が多いこと、入浴は学校に行く前にする子が多いこと、また掃除や水汲み、農作業などの家の手伝いは子どもが当たり前のこととしてやっているなど、様々な生活習慣を知ることができました。



健康・マラリアの調査

ザンビアにおけるマラリアは主要な疾患の一つであり、2007年にマラリアにかかった人は440万人という深刻な状況となっています。

こういった現状をふまえ、モンボシ地区におけるマラリア、また健康についてどのようなことが問題になっているのかについてインタビュー調査を行いました。マラリアについては、具体的にマラリアの症状・治療・予防について聞きました。症状や予防として蚊帳を使う、家のまわりをきれいにする、などの知識は普及している反面、食べ物をきちんと保存する、飲み水にクロリン（塩素消毒薬）を入れるなど、他の病気と混同している部分もいくつか見られました。また治療について、「伝統医のところへ行く」と答えた人が何人かいて、ここでも伝統的な治療が人々の身近なものであり根強いものである、ということを感じさせられました。



お宅訪問調査

お宅訪問調査では、実際に村の人たちのお宅にうかがって、水の保存方法や蚊帳の使われ方、食べ物の保存方法などを調査しました。チソロ村という村に行かせてもらったのですが、日本のように一つの建物の中に台所やトイレ、寝室があるわけではなく、台所は台所で一つの建物、という風にいくつもの小さな建物に分かれていました。調査では、各建物の様子をはじめ、どのような容器で水を保存しているか、蚊帳の使用状況などを写真に撮らせてもらい記録しました。



最後になりましたが、今回のプロジェクトでは様々な方のご支援をいただきました。TICOの吉田先生をはじめ日本事務所でサポートして下さった酒井さん、現地でお世話になった田淵先生をはじめ山本さん、吉田さん、モンボシ小学校の先生方、ンコンデさんを始めとするコミュニティヘルスワーカーの方々、またルサカの宿で大変お世話になったアンドレアさんご夫妻など、本当にたくさんの方のご支援があったからこそ、非常に充実



自分にとって一番大切なものは？

調査の他に子どもたちに「自分にとって一番大切なもの」と「将来の夢」というテーマでお絵かきをしてもらいました。一番大切なものとして、「学校」を描く子が多いのが印象的でした。

した素晴らしい17日間を送ることができたと思っています。皆さんには本当に感謝しています。ありがとうございました。この場を借りてお礼をさせていただきますと思います。

IFMSA-Japan Africa Village Project
メンバー一同

ご支援ありがとうございました

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。温かいご支援をお待ちしております。

寄付をいただいた方

赤星小百合、寒川和代、徳島県立中央高等学校、四国大学チャリティークラブ、藤原薫、大多和通夫、森章子、山元トキ子、高木クニ子、和泉寿成、鳴門市北灘中学校、唐住洲子、副島光江、さくら農園、産業能率短期大学第二部小幡3G、美馬文子、工藤南、吉野川市立森山小学校、山下卯彌香、井上茂樹、安本カチエ、池北国子、石川富代、鳴門市大麻中学校、TICOサポートクラブ、高松聖ヤコブ教会婦人会、田淵規子、ヒラオカ薬局募金箱、岡田理絵、峰尾武、日浅芳一、福井安子、酒井景子、吉田修、新家、石田亘良、戸井、秋月良子、わらびの会、松浦サダ子、秋月益子、横浜市立鶴見中学校、藤田文彦、帝人ファーマ(株)

新たに入会された方

K's Pet Clinic、近森憲助、大多和通夫、黒岩宙司、白木隆司、三木野博之、岡真澄、西尾幸郎、松田千文、池永翔一、鉄谷佳代、古屋絢乃、七崎之利、竹中洋史、(株)フジタプランニング、藤田文彦

会員を更新された方

井口千陽、遠藤千鶴、鏡登志子、久保真一、篠原幸隆、中谷加奈子、松田恵美子、池見真由、渡部豪、神谷保彦、田淵千夏、小野裕次、井内誉範・晴

子、岩田祥三、岡田理絵、金納千晴、黒田浩、田淵幸男、田淵規子、坂東正章、本庄敬、森山庄八、住友和子、関野聡美、寺口カミコ、長野茂夫、堀田延男、真子多恵、山元博子、(株)坂東印刷、中村美恵子、太陽と緑の会福祉事業団

- 2008年10月1日～2009年3月31日分
- 順不同、敬称略

TICOへのご寄付の方法

郵便振替 — 01640-6-37649（加入者名）TICO

銀行振込 — 四国銀行 山川支店（店番号344）普通 0199692
特定非営利活動法人TICO 代表理事 吉田修
カナ入力の場合は、トクビ）テイコ

募金箱 — さくら診療所（徳島県吉野川市）に常設しています。

インターネット — TICOウェブサイトのバナー広告をクリックすると、お買い物代金の一部が寄付されます。

池永翔一 東京医科大学5年

アフリカに行きたい！という単純な動機からはじめたこの Africa Village Project。最初は単純なアフリカへの思いでしたが、関わっていく中で国際保健や地域医療への興味、国際協力への興味を持つようになり、様々な角度からアフリカ見るように努め、堪能できたように思います。ザンビアでは主に子どもたちとの関わりからアフリカを見つめてきました。経済的な問題や金銭的な問題などを抱えている反面、とても楽しそうに生活している彼らの姿が特に印象的でした。また今回も田淵先生を始めとするTICOのスタッフの方々にはお世話になり、診療所の開設という節目のイベントに参加させてもらい、プロジェクトの意義を感じる事が出来、非常に勉強になりました。

今後、彼らのような生活を送っている人々に対しどのような協力をしていくのがよいのか、自分で出来ることは何なのかを考え、実際にやっていくのを目標にしていきたいと考えています。

岡 真奈美

東京女子医科大学2年

ザンビアを訪れて、未知のものに触れ、五感で沢山のことを吸収し、様々なことを考えさせられました。国と国や国の中での格差を実感しましたし、ザンビアでの多くの困難や不便を知りました。また、豊かな文化にも触れることができ、ザンビアで生きる人々を生で感じる事ができました。

さらに今回子どもを対象に調査を行ったことで、元気に笑って学校を走り回っている子どもたちの笑顔の裏を垣間見ることができました。想像をはるかに超える衝撃を受けました。

今回得た経験や思いを日本でさらに成熟させたいと思います。

このような貴重な経験をありがとうございました。お世話になったすべての方々に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

中山隆弘 山梨大学3年

自分は子どものころからアフリカでの支援活動を夢見ており、医者を目指すようになった理由でした。今まで自分はただ漠然に支援活動をしたと思うだけで、具体的にどんなことがしたいのか分らないままでした。しかし、今回実際にザンビアを訪れ現地の人々の生活、健康状態、人生に対する考え、格差社会などを見て、

ザンビアの人々が抱えている問題が少し見えたように思います。もちろん今回の派遣だけですべてを分かったつもりになってはいけなく、これからさらに勉強しザンビアの人々がどんなことを求めているのかを見極め、現地の人々が本当に求めている支援をしていきたいなと思います。

佐治朝子 札幌医科大学4年

緊張でいっぱいのまま訪れたザンビアでしたが、2週間が本当にあっという間に過ぎていきました。お宅を訪問して人々の生活を肌で感じ、子ども達と一緒に遊んでたくさん笑顔に触れ、アンケート調査を通した一緒に遊んだだけではわからない厳しい状況を知りました。ヘルスポストのオープニングセレモニーに出席できたことで、明るい笑顔の裏で人々がどれだけ医療を必要としていたのかを感じることもできました。書ききれな



いくらい様々なものを見ることができたことを嬉しく思う反面、逆に私が見ている世界がどれだけ狭いかを思い知らされることも多々ありました。その全てが貴重な財産だと思います。今回得たことを大切に、これから考え行動し続けていきたいです。あたたかく受け入れてくださったTICOの方々、モンボシの方々、本当にありがとうございました。

新澤美加子 島根大学2年

今回ザンビアに来ることができ、さらに現地で私たちの思うようにやらせていただけて、本当にTICOの皆さん初め、CHWさん、学校の先生、そして両親に感謝しています。アフリカの大地で、実際に自分の目で見、肌で感じて、体験して、本当に多くのことを学ばせていただ

きました。一番印象的だったのはザンビアの人々の笑顔、明るさでした。特に子どもたちの笑顔は、ザンビアに来る前にイメージしていたマイナスな印象を吹き飛ばしてくれたかのように感じました。しかし、アンケートやお宅訪問、色んな方々のお話からは表面上では見えない現実を知ることができました。その現実を目の前にして、何もできない自分の無力さを感じもしました。今回の経験を糧に今後広い視野で考えていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

古屋絢乃 筑波大学3年

アフリカの大地。長年夢見てきた場所に初めて訪れることができてまず感動しました。今回の派遣では色々なことを感じ考えることができました。例えばモンボシ地区の小学校で子どもたちと話をした時に気付いたのですが、子どもたちは、だいたい日々の生活に満足しつつも、もっと良くなることを望んでいて「学校に通っていれば将来、生活が良くなるのではないか」と漠然と期待して通学しているようでした。とてもとても書ききれないのですが、現地を訪れて実際に肌で感じることでできた経験を忘れず色々と考えていき、将来に活かしていきたいです。最後に、とてもお世話になったTICOの方々へ。本当にありがとうございました。

菱川瑠美 福井大学4年

国際協力ってなんだろう？今回、実際に現地を訪れ調査をしていくうちに、少し見えてきた気がします。医療分野の支援ももちろん大切ですが、教育や経済の問題は人々が生きていく上でとても重要で

あり、切っても切り離すことのできない問題だなと感じました。子どもの調査の中で、進学したいが資金面での悩みを抱える子が多数見られました。彼らが今後どうなっていくかを見届けることは私たちには出来ませんが、彼らが夢を実現できることを願うばかりです。また、そういった厳しい現実を抱えながらも、たくましく、そして明るく生きる人々の表情が印象的でした。ザンビアで見聞きしたことをしっかりと受け止め、将来を考えていきたいです。

今回代表として参加するにあたり、自分たちで作り上げた企画を実現できたことはもちろんのこと、参加したメンバーそれぞれがいろんなことを感じてこれからの糧にできたことが一番良かったと思っています。こういった貴重な機会を私たち学生に与えて下さったTICOには本当に感謝しています。ありがとうございました。

モンボシ・ヘルスポスト 開所式

2009.3.27



吉田 純

ザンビア事務所／プロジェクト調整員

工事や電線引き込み作業等の遅延にもめげず、モンボシのヘルスポストがとうとう開所を迎えることができました。予想通りと言いましようか、開所式そのものというよりも、おもしろかったのはその準備。

開所式のアレンジに関する話し合いを行うため、郡保健局へ行ったのが3月10日。まずは日程を決めましょうと相談すると、カレンダーを見ながら「じゃあ、2週間後の金曜日ね」とあっさり。そんな簡単に決めちゃっていいんですか？

では、具体的な準備はマネージャー、モノ氏と決めて頂戴。と悠然と微笑む局長を残して、局長室を退出し、モノ氏の事務所へ移動。

この手のアレンジはよく分かっているというモノ氏は開口一番、

「よろしい。では、まず開所式の準備で一番重要な問題を話し合おう。すなわち『食べ物』！」

「…そうですね」

もう、驚かなくなっている自分を見出しつつ、氏のご意見・質問を傾聴する吉田。

「誰がジュースを買ってくるのか、砂糖はどうする、メイズは郡保健局か？それともTICOが購入するのか？ぶっちゃけいくら予算があるんだ？！」

軽食のビスケットにいたっては、「ザンビア国産のビスケットはダメだ。あんなのは子どものお菓子だから。南アフリカ製の「ブルーラベル（←値段は約3倍）」でないとイケない。1人1パックずつだ。中身の空けられたものでは、呪いがかけられていると思って来賓は食べないから、ぜったい1人1パックずつだ！TICOはいくら買えるのか？」

機関銃のように浴びせられる質問の山を何とか堰き止めつつ、ようやく口を挟むことができたのは5分以上経ってから。

「出席者の人数の検討がつかないと予算が組めません！」

この辺りがザンビアと日本の思考回路の違いのかな、と思うのですが…。

モノ氏曰く、「TICOが出せる予算に合わせて招待する客の数を決める！（断言）」

いや、逆だろう！？と突っ込めなかったダメダメ関西人な吉田です。

もう、笑いをこらえる方が大変なミーティングでしたが、さすがに

「じゃあ、招待客は50人。村からは300人は来る」と言われたときには、「…15人でなく？」と、悲鳴を上げてしまいました。（ちなみに実際は、特別来賓が5名、保健局関係者30人程。村からは200人ほどが参列してくれました（笑））

たった一度のミーティングで十分笑えたのですが、ほんの2週間という準備期間で会ったにもかかわらず、郡保健局とモンボシ地区の関係者、大人も子どもも総出でがんばってくれました。ヘル

スポストの建物はもちろん、周辺もきれいに掃除がされ、花壇のレンガも石灰で白く塗り、床も磨かれ、食事の準備もされ、政府が本当に派遣してくれるのか心配していた常勤の看護師さんまで前日までに着任し、職員住宅に引っ越してくるといふ夢のような展開。ヘルスポストの看板も何とか式典に間に合いました（右上写真）。

紆余曲折を経たものの、開所式そのものは、それぞれに感慨深いものを胸に秘め、それらをスピーチや歌、踊り等へ目一杯注ぎこみ盛大な式典となりました。

参列して下さった方々も、そうそうたるメンバーでチボンボ郡行政官、地元国会議員、JICAザンビア事務所長、チボンボ郡保健局長等々。さらには、去年在任中に亡くなった前ムワナワサ大統領

ザンビア／チボンボ郡農村地域 プライマリーヘルスケア・プロジェクト

2007年8月から始まった、ザンビア・チボンボ郡モンボシにて農村地域の子どものそのお母さんの健康を守るためのプロジェクトです。①最低限の医療を保障するヘルスポスト（簡易診療所）の建設、②住民保健ボランティア／栄養改善普及員の人材養成、③ヘルスポストと住民ボランティアが連携した保健活動、④乳幼児の栄養改善、がプロジェクト活動の柱です。JICA（国際協力機構）から「草の根技術協力事業」として委託を受けています。



「TICOに予算があれば、あと5つヘルスポストを建てるよう説得してみせるう！」とこぶしを振り上げて熱く語るムテカ国会議員



偶然スケジュールが重なったIFMSAの医学生達も踊りに飛び込み、村人達からの大喝采を受けておりました

偶然にも今回モンボシのヘルスポストの開所式に参加することができました。たくさんの村人たちが集まっての歌や踊りがあり、村人と一緒に踊ったりもしてとても楽しかったです。それと同時に、TICOによって建てられたこのヘルスポストによりどれだけ多くの村人たちが恩恵を受けるのだろう、と考えると、このTICOのプロジェットの偉大さを感じました。

領の息子までやってきました！（結構ハンサムです（笑））

モンボシ地区の人たちにとっても、このような大きなイベントはめったにあることではないため、1週間前から練習に練習を重ねた踊りや歌を披露し、式典は楽しい雰囲気に。ひとしきり歌・踊りとスピーチが終わると、みんなでわいわい言いながら施設内を見学してまわりました。

ヘルスポストは、一般の診察室と妊婦さんの診察室、分娩室を備えています。ここで看護師や保健ボランティアが診察や乳幼児検診、お産を行います（ザンビアでは医師でなくても、正規の訓練を受けていれば、基本的な診療は認められています）。はるばる30キロ離れた診療所までかかる必要がなくなり、無料で検診や治療を受けることができます。

今日は何よりも、村の人たちのうれしそうな顔が忘れられません。

「ありがとう。40年以上この村に住んでいて、ヘルスポストができたのは初めて。助けてくれた日本の皆さんに感謝の気持ちを伝えてください。」とわざわざ言いにくてくれた人までいました。

モンボシのヘルスポストの本領発揮はこれからです。まだまだやらなければならないこと、不足していること、できないこともたくさんありますが、この日は皆がずーっとなんと笑顔でいられたことが何よりの門出だと思います。

これまで以上に日本の皆さんとの架け橋になればと思います。

これからもご支援よろしく願いいたします。



ワクチン専用冷蔵庫も前夜に到着



分娩室を案内する、着任したムクンバ看護師



モンボシ小学校合唱団



お祝いの歌を弾き語り。流しの演歌歌手みたいに見えますが、人気者のようです

☞p.1 から続く

原丈人さん・公益資本主義・スピリリナ・学生アフリカ派遣

『21世紀の国富論』の著者であり、国連大使・勲アライアンスフォーラム代表理事・DEFTA PARTNERSグループ会長・財務省参与・政府税調特別委員など様々な顔を持つ、原丈人さんとザンビアで合流した。スピリリナ投与による栄養改善プロジェクトに関する様々な打ち合わせを関係省庁やザンビアのNGOと行うためと、日本の大学生をザンビアに派遣するプログラムの準備のためである。TICOはこの2つの事業を原さんと連携して実施していく。

スピリリナも藻類の一種でアフリカ・チャド湖原産、タンパク質の含量が60%以上、ビタミン、ミネラルも多く含む国連が認めた栄養食である。すでにケニア

などでコミュニティーレベルの栄養改善のための小規模な生産が始まっている。最初はスピリリナを外国から持ち込むが将来はコミュニティーで生産し持続可能なものになりたい。また食文化に関わる問題であり様々なチャレンジがあると思われる。TICO・WAHEプロジェクトの栄養改善のための持続可能な農業、教育、地域住民の保健活動と関連付けて成果をあげたい。

昨年からの金融危機、格差の拡大、派遣切りなどの問題が噴出し、短期の利益を重視する株主の顔色ばかりを見ている会社のあり方が問われている。原丈人さんは、公益資本主義という経済理論を唱えている。会社は社会や従業員のためであるべきで、そのほうが長期的には株主もより多くの利益を得るという理論である。

NGOも利益を上げてそれを社会に還元する企業的な発想が必要で、会費・寄付・助成金に頼ってばかりでは限界を感じる。TICO収益部門を充実させたい。



*今回原丈人さんに同行できたことで、今も非常に尊敬されているザンビア建国の父であるカウンダ初代大統領に面会させていただき大変光栄でした。（写真左より筆者、カウンダ初代大統領、原丈人氏）

ザンビア共和国の アンドレア邸

四国大学短期大学部 西尾幸郎

西尾先生は藻類研究家。“藻”は新たなバイオエネルギーとしての可能性を秘めています。ザンビアではどのような“藻”が利用可能なのか、を調査するため訪れた際に、宿泊したアンドレア邸を紹介していただきます。

TICOの新しい活動資金調達の仕組み

首都ルサカで行う救急隊事業の責任者であるアンドレア氏所有の住宅を改装し、外国人向け宿泊施設を作りました。この宿泊施設からの収益を救急隊の運営費とする予定です。ザンビア滞在中には、ぜひご利用ください。

映画監督でもあるクリント・イーストウッド主演の映画“ホワイトハンターブラックハート”はザンビアの隣国ジンバブエで撮影された。映画に出てくる空港が何となくルサカ国際空港に似ていた。この空港へは日本から35時間ほどの旅だった。

ザンビアの2月23日は快晴、夏用の上着を身につけると少し汗をかいいた。

アフリカが初めての私は、見るもの聞くものの総てが興味深く新鮮であった。木々は緑の葉をつけ、大地はくまなく緑に覆われていた。森とはいえないが豊かな緑の大地が360度どこまでも緩やかな起伏を繰り返していた。広大、そして少し暑いが湿度はそれほど高くはない。これが2月下旬のザンビア共和国首都ルサカの印象だった。この日から12日間、アフリカ大陸中央部、南緯16度、標高1,000mでの生活が始まった。毎日が万感の書を読むようで刺激的だったザンビア紀行、まずは宿舍のアンドレア邸から始める。

アンドレア邸

宿舍となったアンドレア邸はTICO吉田先生の親友の私邸。母屋をロッジに改装して吉田先生と私に開放して下さった。街の中心部に近いノースミードChikonkotoにあり、ショッピングモールに歩いて行ける便利な所ながら、高級住宅街の一角である。隣近所も高い塀に囲



まれ、鉄製門扉を開けて出入りする。見るからに高位の軍人と思われる人物を乗せた高級車が滑り込む邸宅を見かけた。そのためか、この街は夜出歩いても問題はなさそうだった。

アンドレア邸の前に車をつけ、短く警笛を鳴らす。すぐに犬が吠えながら走り寄ってくる気配。高さ2m以上の門扉に遮られているので音で想像するしかない。すると、小窓から人の顔が覗きこちらを見て門が開く。車が庭に入ってエンジンを止める。緑の樹木に囲まれ、芝生にプール、そしてシェパード犬のシャンディーとその一家がにぎやかに迎えてくれた。“誰か来たよ”とご主人様に知らせるのがシャンディー達の仕事。犬たちの騒ぎを聞きつけて、ご主人のアンドレアさん、奥様のグレンダさん、小学校高学年と思える娘さんのナディアさんが出迎えて下さった。アンドレア家にはハンサムな息子さんがもう一人いらっしやった。高校1年生位でサッカー選手、驚くほどインターネットに詳しい好青年です。

アーリーバード

夜明けは5時半ごろ。澄んだソプラノでLet's go togetherと鳥が鳴く。半睡状態で聞かざるは心地よく、どんな鳥が鳴いているのかと思いつつ、いつまでもベッドの中で聞きたい心境。五線譜に書きとめようとしながら、心の中に浮かんで来るのが先程のフレーズ。帰国する前日に思いきって早起きしてソプラノのアーリーバードを待っていたところ、マンガーの高い先端近くにツグミより小さく見える鳥がいた。私に驚いて鳴きながらショッピングセンター方向へ飛んで行った。

グレンダ夫人の手作り料理

朝食は毎日、そして2日に一回夕食をご馳走になった。ザンビアの牛乳、オレンジやマンゴージュースは格別だった。夫人が冷蔵庫にたやさず飲み物と果物を入れて下さっていた。朝食のメニューはシリアル、ベーコンエッグ、ソーセージ、スープ、数種類のパン、トマトに野菜、コーヒー、紅茶、ジュースと牛乳。夕食にザンビア料理をお願いすると、トウモロコシ粉を蒸した“シマ”がふるまわれた。大きなタイガーフィッシュの唐揚げ、ビーフ、ポーク、チキンそして各種葉味、カボチャの葉の炒め物などと一緒にシマを食べた。味は蕎麦搔きに似ていると思った。こちらの人はシマをこよなく愛しており、シマの無い食事は考えるにきくようだ。丁度パンばかりが続いてライスが無い時に感じる日本人の落胆と相通じるものがあつた。一回は米料理もご馳走になった。ライスの無かった私たちを気遣つてのことだった。実質12日間の滞在と短かったが、病氣もせず、ルサカから100キロ以上離れたところでも元気に居られたのはグレンダ夫人の配慮の賜物と今になって気づいている。

私の部屋

プール側から屋内に入ると、広くて暖炉のある

客間に入る。ここでテレビやCDでアフリカの音楽を愉しんだ。数回の会議もこの部屋で開かれた。食堂、台所、作業部屋へと続いている。中廊下を通してプール側二つ目が私の部屋となった。

中央にダブルベッド、机、ソファが主な家具だ。クローゼットに旅行鞆とその中身が全部入ったので、部屋はかなり広く使えた。トイレ、シャワー、洗面台がある小部屋もついていた。バスタブを使いたければ、向かいの部屋に行けばよい。その隣にはインターネットのハブを設置した部屋があり、夜間ネットがダウンしたとき、ここで電源の再投入を試みた。大抵はプロバイダーの問題で、朝を待つのが最も有効な修理方法だった。

アンドレア邸で暮らして有り難いと感じることはたくさんあつた。インターネットで調べものをし、日本の家族と連絡を絶やさずに過ごせたことは感謝の第一番だった。

ザンビア最後の夜のバーベキュー

明日は帰国という夜、ご夫妻によってバーベキューパーティーが開かれた。プール横のスポーツジムコーナーに炭火をおこし、巨大なソーセージ、牛肉、鶏肉、野菜、魚、食材は豊富でした。ビールのモッシュを飲み、ザンビアの夜に名残を惜しんだ。プールに月が映り、椰子の木の下にアンドレア氏がこだわったサウナも見えた。このサウナ、2回しか使わなかったのが心残りだ。

少しの食べ物を持って「工作中」のシャンディーの横に座る。日本では味わう事のできない高貴な時間の中に自分が居る。パラダイス、ヘブン、極楽、別世界、帰りたくない、そうは行くまい。様々なフレーズが頭に浮かんだ。おそらくザンビアに向けて出発する時に、帰国を直前にしたこのような思い、このような変化が待っているとは考えもつかなかった。



おわりに

ザンビア共和国がイギリス支配の北ローデシアから独立したのは1964年10月23日金曜日のことだった。初代大統領はケネス・カウンダ氏。菜食主義者で今もお元気だ。

決して豊かではないザンビア、沢山の課題を抱えた国。しかし、地上の楽園に成るかも知れないと予感させる国。今回のザンビア訪問は雨季の終わりだった。乾季にもう一度邪魔できれば、もっと確かなことが言えそう

徳島／事務局便り

新職員紹介

4月からTICO事務局に国内業務の担当者が2名着任しました

瀬戸口千佳

こんにちは。はじめまして。この3月に大学院を卒業し、将来どうしようかとふらふらしていたところ、TICOに出会いました（というか、拾ってもらいました）。はやく仕事を覚えて、よりよい世界に貢献できる人間に成長していきたいです。先のなが〜い話ですが。

今回は、この Face to Face の編集に関わらせていただき、まだ見ぬザンビアが少し身近に感じられるようになりました。読者のみなさんも読んだ後にそう感じていただけたらとてもうれしいです。

どうぞよろしくお願いいたします。



庄田多江

もう来る機会もそうそうないだろうな…と思いつつ、アフリカを満喫するため、協力隊2年の任期を終えてガーナより帰国する際立ち寄った国、ザンビア。まさか2カ月足らずで出戻るとは思ってもいませんでした。が、はろ〜ざんびあ、あげいん。。。

4月よりTICO事務所でお世話になっております、庄田多江と申します。現在活動視察のため、ザンビアに滞在しております。ザンビアをたくさん吸収し、7月の帰国後には皆様にお届けできるように頑張りたいと思っております。これからよろしくお願いいたします。



5月の地球人カレッジ

毎月1回開催されている国際協力の勉強会です。
みなさまふるってご参加ください。

日時 5月23日（土）19～21時

会場 さくら診療所・デイケア室（吉野川市山川町前川212-6）

テーマ ムリ プワンジ？ ザンビア便り ～TICOザンビア2008年度活動報告～

報告者 山本 ひとみさん（TICOザンビア事務所スタッフ）

内容 TICOが行なっているザンビアでのWAHEプログラム、2008年度の活動を報告します。チペンビでのアグロフォレストリーと小規模ローン、ンゴンベ&モンボシのコミュニティスクール支援、など。

TICOザンビアの活動報告のほか、ザンビアの生活、食べ物、子どもたちの様子などを、のほほんのんびりザンビアペースでお話します。

★コピーライターの糸井重里氏が主宰している『ほぼ日刊イトイ新聞』に掲載された原文人氏（p.6参照）との対談の中で、TICOについて触れられています。どうぞご覧ください。

<http://www.1101.com/hara/fourth/>

★事務局のメールアドレス zikomo@nmt.ne.jp が今後使えなくなります。ご連絡の際は info@tico.or.jp へお願いします。

TICOへの入会方法

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートしてくださる方を募集しています。会員の方には、TICOニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

年会費

賛助会員	個人	¥12,000
	学生	¥6,000
	団体	¥15,000

正会員 ¥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添え下さい。

TICOニュースレター Face to Face 第17号

2009年5月発行 発行人：吉田 修
編集：瀬戸口千佳

特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4

電話：090-7786-3193

ファクス：0883-42-2271

メール：info@tico.or.jp

ウェブサイト：www.tico.or.jp